

# 2024年3月期 第2四半期 決算説明資料

---

## 東邦化学工業株式会社

東京証券取引所スタンダード市場 証券コード：4409

2023年11月6日

## 主要財務諸表（連結）

単位：百万円

	2024年3月期 (第2四半期)	2023年3月期 (第2四半期)	前年同期比
売上高	24,941	27,516	△ 2,574
営業利益	256	303	△ 46
経常利益	214	198	+ 15
親会社株主に帰属する 四半期純利益	131	135	△ 3
1株当たり四半期純利益	円 銭 6.27	円 銭 6.41	円 銭 △ 0.14

### 売上高：減収

- ・ 海外の自動車関連や電子情報材料関連をはじめとする需要の低迷
- ・ 原料不足による石油樹脂の減産

### 営業利益：減益

- ・ 売上高の減少によるマイナス影響
- ・ 人件費、設備費等の固定費の増加
- ・ 不正アクセスに係る対応費用及び情報セキュリティ強化対策費用の発生

## 連結四半期業績推移

単位：百万円

	2023年3月期				2024年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	13,093	14,423	14,553	13,292	12,627	12,313
		上期		下期		上期
		27,516		27,845		24,941
				通期		
				55,361		

	2023年3月期				2024年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
営業利益	35	268	569	511	△ 34	291
		上期		下期		上期
		303		1,080		256
				通期		
				1,384		

# セグメント別の状況

## 界面活性剤

単位：百万円

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期
売上高	14,999	14,183
セグメント利益	284	165

## 樹脂

単位：百万円

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
売上高	2,550	1,702
セグメント損失	△55	△65

- 香粧原料
- プラスチック用添加剤
- 土木建築用薬剤
- 紙パルプ用薬剤
- 農薬助剤
- 繊維助剤 等

## 前期比較

売上高：減収  
香粧原料、プラスチック用添加剤、農薬助剤  
の販売減少等により減収

セグメント利益：減益  
減収に伴い減益

## 前期比較

売上高：減収  
石油樹脂の原料不足による大幅減産 及び  
合成樹脂、アクリレートの販売減少等により  
減収

セグメント損失：赤字拡大  
減収に伴い赤字拡大

- 合成樹脂
- 石油樹脂
- 樹脂エマルション
- アクリレート 等

## 化成品

単位：百万円

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
売上高	3,670	2,755
セグメント損益	△34	14

- ロジン系乳化重合剤
- 石油添加剤
- 金属加工油剤 等

### 前期比較

売上高：減収  
ロジン系乳化重合材、石油添加剤の販売減少等により減収

セグメント利益：増益  
前期の原料ロジン価格の大幅な値下がりに伴う連結子会社懐集東邦化学有限公司における在庫評価損が当期はないことによる増益

## スペシャリティーケミカル

単位：百万円

	2022年3月期 第2四半期	2023年3月期 第2四半期
売上高	6,238	6,229
セグメント利益	112	193

- 溶剤
- 電子情報産業用の微細加工用樹脂 等

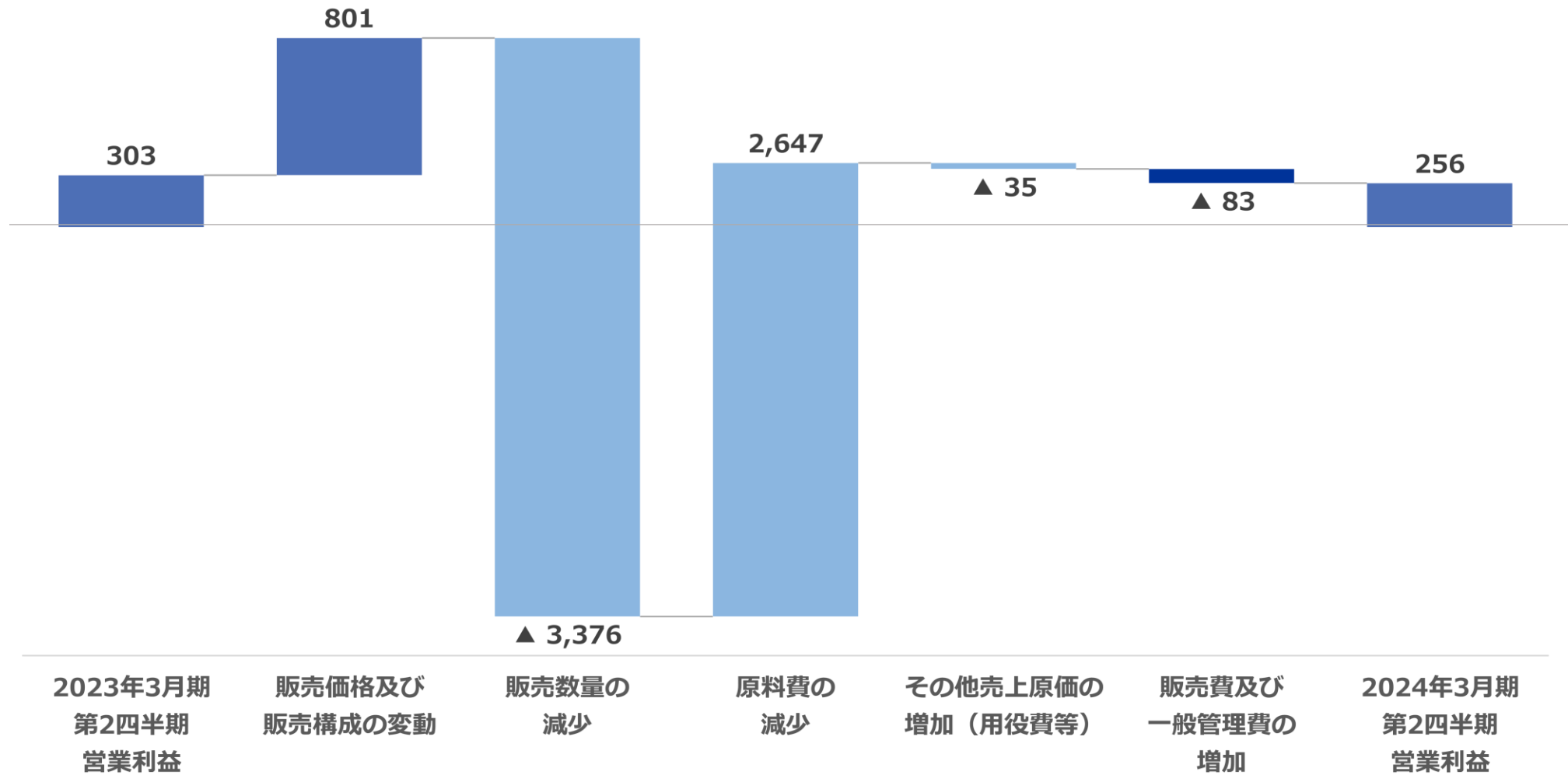
### 前期比較

売上高：減収  
溶剤は販売増加したものの、電子情報産業用微細加工用樹脂は半導体不況の影響で販売減少し減収

セグメント利益：増益  
製品価格の是正をはじめとする採算改善への取り組みにより増益

# 連結営業利益の増減分析

単位：百万円

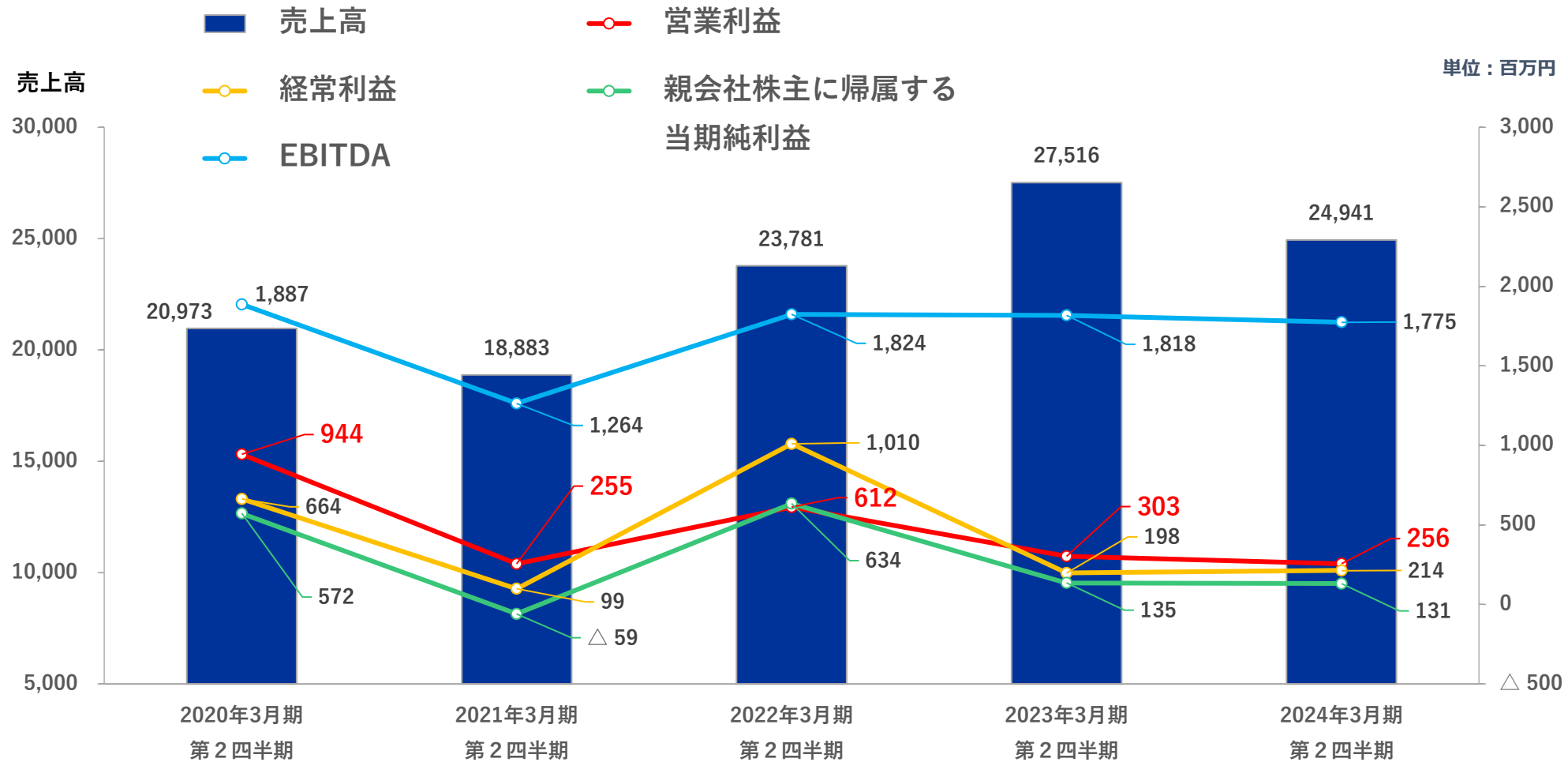


## 連結キャッシュ・フローの状況

単位：百万円

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	前年同期比
営業活動による キャッシュ・フロー	515	1,409	+ 894
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 3,464	△ 655	+ 2,809
財務活動による キャッシュ・フロー	563	△ 690	△ 1,253
現金及び現金同等物 期末残高	5,021	6,041	+ 1,019

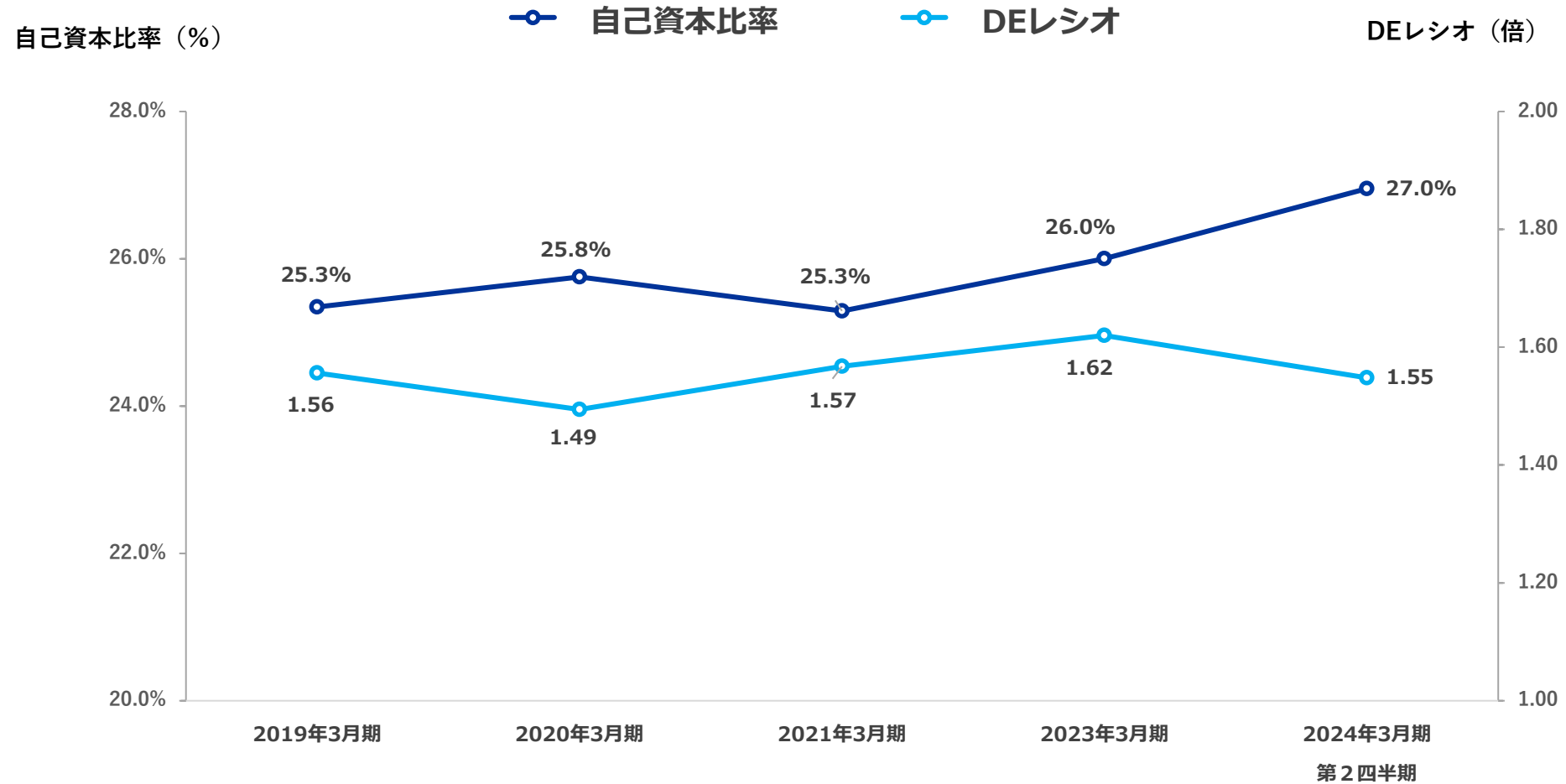
# 連結業績推移 (第2四半期)



EBITDA：営業利益+減価償却費



# 経営指標推移

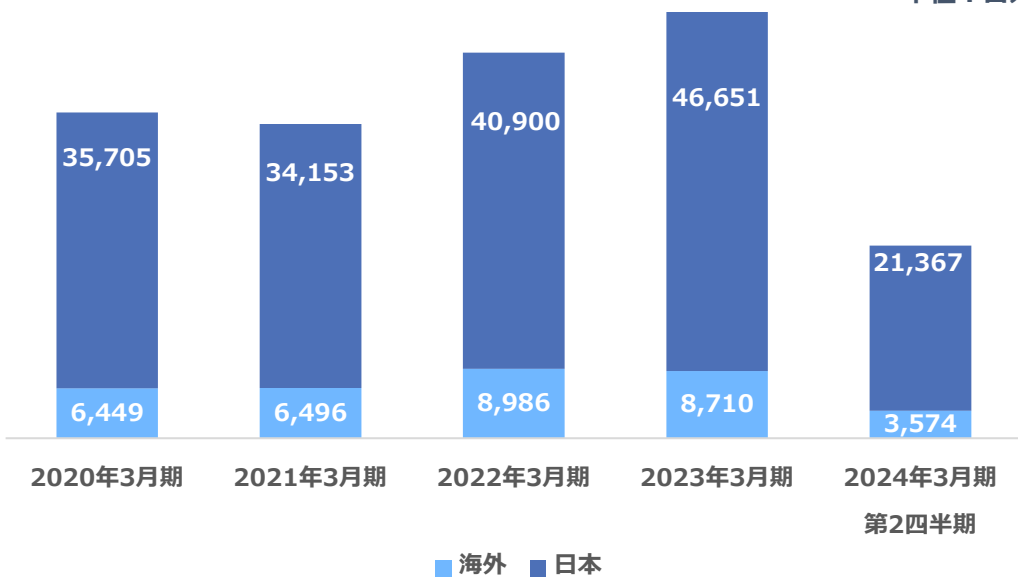


DEレシオの有利子負債は社債・借入金の合計額を対象としております。

# 地域別連結売上

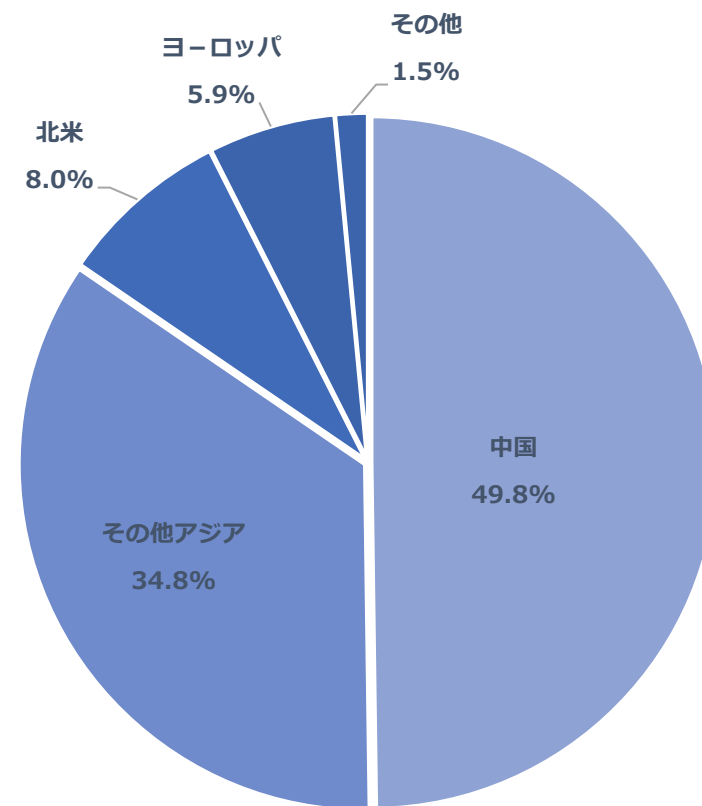
## 国内・海外別売上推移

単位：百万円



## 海外売上における地域別売上比率

2024年3月期  
第2四半期



## 海外売上比率

2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期 第2四半期
15.3%	16.0%	18.0%	15.7%	14.3%

## 連結業績予想

単位：百万円

	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想
売上高	55,361	50,500
営業利益	1,384	700
経常利益	1,179	600
親会社株主に帰属する 当期純利益	977	390
1株当たり当期純利益	円 銭 46.31	円 銭 18.55
年間配当金	15	17

### 売上高：減収

- ・ 中国経済の低迷や半導体不況の長期化などにより、期初から低調な製品需要の回復は遅れる見込み。
- ・ 原料不足による石油樹脂の減産影響が期初想定より拡大。

### 営業利益：減益

- ・ 売上高の減少によるマイナス影響。
- ・ 主原料である酸化エチレンの大幅な値上がりによる原料費への影響。
- ・ 人件費、設備費等の固定費の増加。
- ・ 不正アクセスに係る対応費用及び情報セキュリティ強化対策費用の発生。

## TOHO Step Up Plan 2024の進捗状況

	TOHO Step Up Plan 2024 最終年度（2025年3月期） の数値目標	2023年3月期実績	2024年3月期予想
売上高 (百万円)	60,000	55,361	50,500
営業利益 (百万円)	3,000	1,384	700
売上高営業利益率 (%)	5.0	2.5	1.4
純資産額 (百万円)	20,500	17,765	—
自己資本比率 (%)	28.0	26.0	—
ROE (%)	10.0以上	5.7	—
1株当たり配当額 (円)	20	15	17

# TOHO Step Up Plan 2024 の取り組み状況

## <最重要課題>

1. 事業ポートフォリオ基本方針に基づく収益性重視の経営の推進
2. 電子情報材料分野の拡大で中核事業化へ
3. 東邦化学（上海）有限公司を成長軌道に乗せる

## <その他の重要課題>

1. 脱炭素化に向けたサステナビリティ活動の取り組み強化
2. 最適生産体制の一層の強化
3. 研究開発投資の選択と集中の徹底で高機能・高付加価値製品の開発を加速
4. スリムな人員体制で人材育成に注力し、社員の待遇改善を図る

当社の成長の鍵である電子情報材料事業（最重要課題2）と中国事業（最重要課題3）は、今期は半導体不況の長期化と中国経済低迷によるマイナス影響が大きく、計画どおりの事業拡大が難しい状況。その他の事業も総じて需要は低調であり厳しい環境。今期の業績は、遺憾ながら計画最終年度の数値目標から大きく乖離する見込みですが、需要回復時の業績V字回復に向けて足場を固めるため、上記の最重要課題及びその他の重要課題に引き続き全力で取り組んでいます。

## <重要課題・その他重要課題の取り組み状況>

### 事業ポートフォリオ基本方針に基づく収益性重視の経営の推進

製品別営業利益を意識した採算改善のための価格是正や原価低減活動等を推進中。

### 電子情報材料分野の拡大で中核事業化へ

2022年5月新プラント稼働。来期は半導体需要回復に伴う既存設備の稼働率アップを見込む。

2025年度以降の需要動向を確認し、次期設備増設にも着手する。先端製品開発にも注力中。

### 東邦化学（上海）有限公司を成長軌道に乗せる

足許は中国の景気低迷の影響大。中国国内の需要回復を待つ一方、日本に比べて安価な原料のメリットを活かし、日本からの製造移管による生産量拡大も進めている。

### 脱炭素化に向けたサステナビリティ活動の取り組み強化

エネルギー消費量削減計画立案に取り組中。環境負荷低減製品の開発を進めている。

### 最適生産体制の一層の強化

上海への製造移管も含めた工場間の製造移管や、DCS化による省人化を進めている。

### 研究開発投資の選択と集中の徹底で高機能・高付加価値製品の開発を加速

長期戦略テーマに研究開発エネルギーを重点投入し、新規開発品の一部で実績化が進捗。

### スリムな人員体制で人材育成に注力し、社員の待遇改善を図る

生産量に見合った人員配置の見直しに取り組中。